



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

# イタリア美術講座

## 受講者募集!

■お申込み→〆切4/30、先着順(会員優先)■

- 時 間● 毎回午後2時～4時頃まで  
(質疑応答含み1時間半～2時間程度)
- 会 場● 美術館2階工房
- 対 象● 友の会会員及び一般市民 30名程度  
※全回通して参加できる方が望ましいですが、各回ごとでも受講可能とします。但し、申込み多数の場合は、会員並びに全回通じて参加される方が優先となります。
- 聴講料● 無 料
- 注 意● 開催日は平成15年3月現在のものです。諸事情により変更となる場合も考えられますので、その都度、お申込みをされた方にはご案内をさせていただきます。

●申込み・問合せ● 美術館へTEL0176-62-5858(4/30迄)

鷹山宇一記念美術館友の会では、新年度の事業計画を検討中です。平成15年度も通常総会の開催企画展でのボランティア活動・会報の発行・基金の積立・各種研修活動等が計画されています。また平成16年1月には5年ぶりの海外研修旅行を実施いたします。このイタリア研修旅行を記念して美術講座を開催いたします。

友の会では、青森県環境生活部、美術館整備・芸術パーク構想推進室のご協力を得て、「イタリア美術講座」を開催することとなりました。  
〔青森県立美術館〕(仮称) 開館へ向けて忙しい毎日をお過ごしの方、黒岩恭介館長はじめ学芸員の皆様を講師としてお招きいたします。

全6回の日程で下記のとおり内容となっております。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますようご案内いたします。

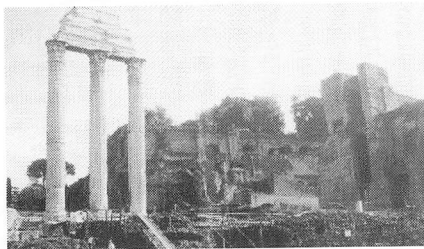
回	開催日	テーマ	内 容	講 師
1	5/17 (土)	アッシジとピサ 中世美術の楽しみ	アッシジの聖フランチェスコ教会は14世紀の初頭、ジョットやシモーネ・マルティニといった当時を代表する画家たちによって、数々の傑作が生み出されたアートの大拠点でした。教会内に残る代表的なフレスコ画を鑑賞し、そこに秘められた意味を考えながら、宗教絵画の面白さについての講座です。また、ピサ・ロマネスクと呼ばれるピサの街特有の建築様式や納骨堂に見られる壁画について解説します。	学芸員 高橋 しげみ 氏
2	6/21 (土)	フィレンツェ ルネサンス美術の楽しみ	文字通り「花の都」と唱われたフィレンツェはイタリア・ルネサンスの中心都市として、15、16世紀にはまさに満開の花のように咲き誇りました。メディチ家の庇護の下、レオナルド、ミケランジェロ、ラファエッロら名だたる美術家が、この都市を舞台に活躍していました。街を歩くと、「都市が芸術を育て、芸術が都市を造り出した」ことが至る所で実感されることと思います。	総括学芸主幹 三 好 徹 氏
3	7/5 (土)	レオナルド・ダ・ヴィンチと ミラノ	ミラノのサンタ・マリア・テレ・グラツィエ聖堂にあるレオナルドの「最後の晩餐」について考えてみます。レオナルド以前の「最後の晩餐」と比較しながら、レオナルドの天才と創意について、また、時間があれば、プレア美術館のカラヴァッジオやスフォルツェスコ城のミケランジェロの『ピエタ』像についても、いろいろと話してみたいと思います。	美術館整備推進監 (館長予定者) 黒岩 恭介 氏
4	8/23 (土)	ローマ バロック美術の楽しみ	ローマは古代の遺跡を多く残す街であると共に、ローマ教皇のお膝元としてルネサンスからバロックに至るまで、壮麗な宗教美術によって飾られた大都市です。宗教美術がもっともめざましい成果を残したルネサンス期を代表する巨匠・ミケランジェロとラファエッロについて、サンピエトロ大聖堂とシステリーナ礼拝堂を中心に解説をします。また、ローマで活躍した画家カラヴァッジオと彫刻家ベルニーニを中心に、劇的で力動感に満ちた作品を生み出したバロック美術について考えてみました。	学芸主査 池 田 亨 氏
5	9/20 (土)	ヴェネツィアと ヴェローナの美術	海の都ヴェネツィアは、人工的に作られた水上都市です。今も船を主要な交通手段としてこの特異な街の歴史と魅力は何でしょうか。アカデミア美術館、パルツォ・ドゥ・カレなどにある作品の中から、ベッリーニ、ティツィアーノ、ティントレットなど、ルネサンスに花開いた色彩豊かな絵画芸術であるヴェネツィア派について解説をします。また、北イタリアにある魅力的な小都市ヴェローナの歴史と芸術についても話をしたいと思います。	学芸主査 池 田 亨 氏
6	10/18 (土)	チネチッタ 映画都市への旅立ち	チネチッタとは、映画都市を意味すると共に、ローマにある世界最大級の映画撮影所の名を指します。ロベルト・ロッセリーニの名作「イタリア旅行」やウイリアム・ワイラー「ローマの休日」をはじめ、映画作家たちは、イタリアを舞台に数々の傑作を世に送り出しました。イタリア都市を舞台とした映画の傑作をめぐりながら、映画作家たちはどのように、イタリアの都市をカメラにとらえたかについて考えながら、皆さんのイタリア旅行に新たな視点をもたらすことが出来れば幸いです。	総括学芸主査 立木祥一郎 氏

# イタリアルネッサンス紀行日程決定!!

平成16(2004)年1月20日(火)~30日(金)イタリア周遊11日間の旅



▲フィレンツェの町並み。ドゥオモのクーポラから一望！右奥の塔はウヰッキオ宮殿の鐘楼。古くからの政治の中心地で、ウヰツィ美術館と隣接している。  
▼ローマ「フォロ・ローマ」。古代ローマの政治・経済・文化の中心だったところ。紀元前6年に「カストルとホルスの神殿」を修復した時の3本の柱が今も残っている！



平成12年1月に5周年記念として「スペイン・パリ美術紀行」を企画、実施いたしました。帰国後、早期に次の企画を！と大好評につき、早速候補地など研修先を検討し、第2弾としてこの「イタリアルネッサンス紀行」の計画を立ち上げました。役員会、旅行会社との打ち合わせを数回重ねた後、平成13年に募集を始め、お陰様にて現在参加希望者は38名となっております。  
募集した当初はまだまだ先のことと思っておりましたが、出発まで残すところ10ヶ月足らずとなり、あらためて時の経つ早さに驚いております。  
出発日等詳細が決定いたしましたので、旅行日程をご案内いたします。定員を40名までと拡大いたしましたので、まだ若干の受け入れが可能です。また、キャンセル待ちも受付いたしておりますので、「この日程ならば…」とお考えの皆様、どうぞお気軽に美術館までお問い合わせ下さい。

## 日程表

- 1日目 平成16年1月20日(火)**  
七戸中央公民館出発→八戸駅から新幹線「はやて」にて東京へ  
夜、成田空港から空路パリへ(飛行時間約13時間30分)【機内泊】
- 2日目 1月21日(水)**  
早朝パリ到着後、乗換で空路イタリア・フィレンツェへ。到着後、フィレンツェ市内観光(ウヰツィ美術館、アカデミア美術館、ドゥオモ、ウヰッキオ橋、シニョリア広場など)【フィレンツェ泊】
- 3日目 1月22日(木)**  
午前中ピサ市内観光、午後フィレンツェへ戻り、昼食後自由時間  
※自由時間には、旅行社主催の定期観光コースのほか、美術館巡りなどを盛り込んだ友の会オリジナルフィレンツェ観光コースの設定もあり！個人行動でも団体行動でもご自由にご選択可能です。【フィレンツェ泊】
- 4日目 1月23日(金)**  
朝、フィレンツェ出発、専用バスにてローマへ、途中アッシジへ立ち寄り「聖フランチェスコ教会」を見学。午後、ローマ到着後市内観光(コロッセオ、トレビの泉、スペイン広場など)【ローマ泊】
- 5日目 1月24日(土)**  
ローマ市内観光(サン・ピエトロ寺院、システーナ礼拝堂、ヴァチカン美術館、ホルケーゼ美術館など)【ローマ泊】
- 6日目 1月25日(日)**  
2つのコースから選択！もしくは自由行動もOK  
①ナポリ・ポンペイ観光 ②友の会オリジナルひと味違うローマ市内観光【ローマ泊】
- 7日目 1月26日(月)**  
午前、空路ヴェネチアへ。ヴェネチア市内観光(サンマルコ寺院、サンマルコ広場、トカレ宮殿、アカデミア美術館など)【ヴェネチア泊】
- 8日目 1月27日(火)**  
午前ヴェネチア出発、専用バスにてベローナへ。到着後市内観光(ジュリエットの家、エルバ広場、アレナ、シニョーナ広場など)  
午後ミラノ到着後、市内観光(ドゥオーモ、スカラ座、ヴィットリオ、エマヌエレ2世アーケードなど)【ミラノ泊】
- 9日目 1月28日(水)**  
ミラノ市内観光(サンタ・マリア・デレ・グラツィエ教会、スフォルツェスコ城[美術館含む]、ブレラ美術館など)【ミラノ泊】
- 10日目 1月29日(木)**  
午前空路パリへ。乗換で成田へ(飛行時間約11時間30分)【機内泊】
- 11日目 1月30日(金)**  
午前、成田空港到着後、東京駅へ。新幹線「はやて」にて八戸駅へ。到着後専用バスにて七戸中央公民館へ  
めでたく解散！

イタリア国内では朝・昼・夕、すべて食事付きです。

●24日午前にはウァチカン市国へ。サン・ピエトロ大聖堂、ミケランジェロ23歳の傑作『ピエタ』や、システーナ礼拝堂の天井画、祭壇画『最後の審判』、また、ラファエロの『アテネの学童』をはじめ重要な作品がスラリ!!でも頑張って半日でまわります…。午後はホルケーゼ美術館へ。『アポロとダフネ』などベルニーニの作品が充実！美術三昧の1日です。

●ローマの休日のはんびり自由なひとときを！もしくは、友の会オリジナルの市内観光、又は日帰りでナポリ・ポンペイへ。ひと味違うローマ市内観光では、通常の観光コースにはない、ローマの日常を体感いただけるような内容で只今検討中です。



景が絵になります。▶ さすがイタリア！日常の街角風



◀ウァチカンの『ラオコーン』。ミケランジェロにもインスピレーションを与えた像とか…。

●丸2日間フィレンツェに滞在、22日には午後半日を自由時間としました。ゆったりお過ごしいたたくのもよし、友の会オリジナルの市内巡りを楽しむのもよし！オリジナルコースでは、16~17世紀の名画を中心としたコレクションで知られる、ピッティ宮殿内の「パラティーナ美術館」へも足を延ばします。ラファエロ、ティツィアーノ、フィリッポ・リッピなど見逃せない作品ばかり。

●レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』はもちろんのこと、ミケランジェロが死の直前まで制作を続けていたという未完の大作『ロダンニのピエタ』を展示する、スフォルツェスコ城内の市立美術館へ入館します。また午後は、イタリア屈指の絵画コレクションで知られるブレラ美術館へ。燃えるような色彩表現が特徴のヴェネチア派など、15~18世紀の作品が充実！どちらも通常の団体旅行ではなかなかまわれない美術館です。

鷹山宇一記念美術館  
News & Report  
2003年3月15日発行



平成15年度  
鷹山宇一記念美術館  
特別展

◆  
春季二科展

【併催】  
二科会青森支部展

4/26(土)→6/1(日)

◆  
木でつくろう!造形の森展  
島田紘一呂展(仮称)

7/19(土)→9/7(日)

◆  
成田亨とその時代展(仮称)

9/13(土)→10/13(月)

◆  
第63回国際写真サロン展

【併催】  
第13回全日本写真連盟関東本部委員展  
'02モデル撮影会入賞作品展

10/18(土)→11/3(月)

◆  
第3回地球環境  
世界児童画コンテスト優秀作品展

第3回鷹山賞児童作品展

11/22(土)→12/14(日)

10:00~17:30(閉館18:00)

会期中は無休

◆  
反の会会員の皆様は  
特典とおり

ご入館いただけます



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
春季二科会青森支部展

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
木でつくろう!造形の森展 & 島田紘一呂展(仮称)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
成田亨とその時代展(仮称)

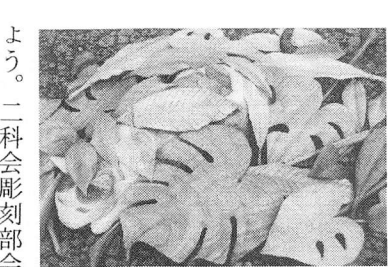
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
第63回国際写真サロン展

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
第3回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
鷹山賞児童作品展

春の訪れを告げる恒例の特別展「春季二科展」。二科会絵画部、彫刻部会員による新作をご鑑賞いただけます。油彩80余点、彫刻10余点で構成。また、青森県在住で秋の本展「二科展」に一般出品している、二科会青森支部同人による絵画展も併せて開催します。

子どもたちは自由に豊かな発想が出来る天才です!「造形の森展」は、木で出来た様々な形をつないだり、重ねたりして自分の好きな「かたち」を作っていく、参加体験型の展示会です。想像を巡らせて自由に考え、実際に触れて楽しもう!そして、木と存分に触れ合った後は...?ひとりのアーティストを紹介しましょう。

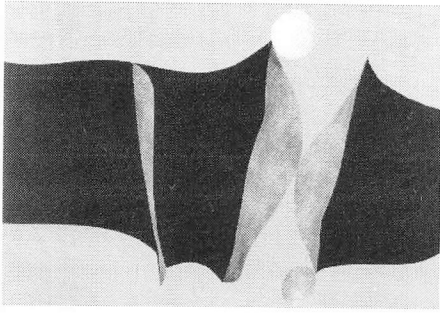


▲島田紘一呂氏「薫風」。今年の「春季二科展」出品作。

青森県立美術館開館に向けたプレイベントとして、青森県が生んだ美術家たちを紹介する「アートツアー・イン青森」。第2回となる本展では、県と当館との主催により、ウルトラマンのデザイナーで特撮美術監督としても活躍をした郷土ゆかりの彫刻家・成田亨(1929~2002)の仕事を取り返ります。県が所蔵するデザイン原画や遺族が所有する彫刻作品など、成田芸術の全貌を紹介すると共に、彼が影響を受けた作家、また同時に活躍をした作家、さらに、成田の残した文化環境の中で育った若手作家の作品も併せて展示します。会期中、シンポジウム、関連映画上映会、ワークショップも開催予定です。お楽しみに!

国や地域を問わず、世界の写真愛好家を対象に、朝日新聞社全日本写真連盟が主催する権威ある写真コンテスト「国際写真サロン」。第63回展も海外40カ国・地域から3,006点、国内46都道府県から3,334点の応募がありました。本展はこれら応募作品の中から選ばれた入選130点を紹介します。また、「全日本写真連盟関東本部委員展」並びに、昨年当館で開催された全日写真青森県本部主催モデル撮影会から、入賞作品展を同時開催します。

地球を救う君たちへ!国際認証機関ネットワーク、(財)日本品質保証機構が主催する世界児童画コンテストも第3回展。60カ国から14,415点もの作品が寄せられました。子どもたちを取り巻く環境、そして夢や希望が表現された力作には、いつもながら唸らされっぱなし!また「鷹山賞児童作品展」は同じ世代の青森県南部地方児童生徒に作品を公募するものです。これら2つのコンテストから優秀、入選に選ばれた秀作の数々を紹介します。



▶「ワルツ」西野嘉廣氏  
(社団法人二科会理事・絵画部会員)



「造形の森展」を吊ったり、浮かせて遊ぼう!

春季二科展  
入館料  
一般 ¥500  
学生 ¥300  
小中 ¥100  
※20名様以上は各2割引。

未来のアーティストたちへ贈る夏休み。子どもも大人も一緒に楽しもう!ご家族では非お出掛け下さい。

美術館からご案内  
①特別展準備のため、会期の前後5日間ほど臨時休館となります。ご了承下さい。  
②美術館のメールアドレスが変更となりました。下記のとおりよろしくお願い申し上げます。  
takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp

# 秋山庄太郎先生を悼んで

当館顧問で写真界の大御所・秋山庄太郎先生が、1月16日、急逝されました。心より哀悼の意を表します。

## 青森巡り自然めです

鷹山 ひばり

「これほど暑い夏はかつてなかった」と土地の人たちは口々に云った。平成六年八月一日美術館開館式当日のことである。

秋山先生は、「鷹山さんの作品を見た瞬間、二科会に入ろうと思ったよ。その憧れの鷹山作品を一点持っていたが、有馬稲子ちゃんはどうしてもというので、譲った。でも、あれは自分の金で買った作品だったんだ。羨ましいねえ。こんな美術館ができて……」と祝福して下さった。美術館顧問に就任される前から、よく七戸に立ち寄りられていたが、寝るにはベッドを、そして洋式トイレを所望された。

あいにく、常宿となった盛田旅館は古くからの日本旅館で格好のベッドがない。皆で思案をしている時、大広間の舞台を使う話になった。早速、幕がついている舞台のきわに布団を敷き、スポットライトを舞台下に移した。「ストリップ劇場

だ」と日劇ミュージックホールの話になりながらも、渋々承諾された先生が、ふと気づいて、「二百畳の部屋に一人で寝るのか」と云われた。帰る家がある面々は、黙って下を向き、あとは旅館の兄さんに託す事にした。

開館式の前日は、先生の講演会だった。突然、血相を変えて美術館に來られた。何事かと不安な思いで立ちつくすスタッフの前を照れくさそうな顔をして「トイレ、トイレ」と云いながら、すぐに講演会場に戻られた。美術館は洋式スタイルなのだ。

先生は、弱いくせに麻雀が大好きだった。天下の秋山庄太郎と卓を囲めるとあって、七戸の名人たちは肩で風を切って旅館に集まった。一人負けをした先生は、口惜しさの余り、一日帰京を延ばし敗者復活戦を狙った。しかし、実力通り、翌日も惨敗であった。

それでも、旅館の姉さんが作った「ケイラン」が大好物で、日本酒を白ワインで割る邪道な飲み物とともに、「ケイラン」三人分は必ず確保されていた。

七戸に滞在中は、アマチュア写真家の石田清剛氏と撮影に出るのが常だった。《この人に任せておけば大丈夫》と全面的に信頼され

ビール箱を踏み台にして車体の高い車に苦勞して乗り込んでいた。どうして、そこまで助手席に固執するのは、不思議だった。道端に咲いている小さな花を目敏く見つけると、どんな場所でも車を止めさせるには、

一番の席だと後日わかった。奥羽牧場、田代高原、奥入瀬花鳥溪谷、八甲田と、青森を愛でて、「僕は青森が大好きだ」と云っておられた。

若い頃、私は林忠彦に恋をした。お嫁にして欲しいと申し出たが、「持ち時間のない私より、永く幸せにしてくれる男をみつけない」と諭された。諦めきれ

ない私は、秋山先生に口添えをお願いしたが、「若い身が、何がよくてあんな年寄りと一緒になるのか」と一蹴された。私は、その時男の嫉妬に違いない、と思

いこみ、人選を誤ったことを深く後悔した。晩年、車椅子に乗った林先生が「幸せかい」と手を握ってくれた横から、「ダンナだよ」と主人を紹介し秋山先生は「云った通りだろう」という顔をしていた。そして、林先生の車椅子を押して、二科展会場の父の作品の前に移動し、二人で話し込んでいた。

心を許し合った林先生が亡くなった時、男泣きをした秋山先生が、今度は『林忠彦賞』の選考中に倒れたことに、私は言葉を失った。その一月十六日は、奇しくも私がこの世に生を享けた日でもあった。

美術館に飾ってある父の写真は無論、秋山庄太郎撮影作品である。ある時、サインが入っていない、と云って、手持ちのペンで署名して下さった。「秋山庄太郎」と書き著された父の写真の前に、今、私は、涙が止まらない。

【鷹山宇一記念美術館館長】  
《本文は、1月23日、東奥日報夕刊に掲載されたものです》

1996年、七戸町の名人たちと卓を囲む秋山先生

## 美術館日誌

### 【12月】

◇「七彩会」油絵教室開催 《8日》

◇鷹山宇一誕生記念日無料開館の実施／「遊蝶記」の集い、記念講演会（講師に青森県学芸員・工藤氏）開催《10日》

◇鷹山館長金木中学校にて講演会《12日》

◇第2回鷹山賞児童作品展、第2回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展最終日 《15日》

◇火曜サロン開催《17日》

◇展示替え作業のため臨時休館《17日～20日》

◇鷹山館長上北教育長会議にて講演会《19日》

◇鷹山館長東京出張 《22日～29日》

◇年末年始の休館日 《30日～1月2日》

### 【1月】

◇鷹山館長七戸町名刺交換会《出席4日》

◇株青森原燃テクノロジセンター主催「おもしろパソコン教室」で参加児童が美術館を取材／鷹山館長もみのき学園にて講演会《9日》

◇友の会主催海外研修旅行「イタリアルネサス美術紀行」について、担当役員と旅行社との打合せ会議開催《17日》

◇「七彩会」油絵教室開催、平成14年度第4回友の会役員会開催《19日》

◇県民カレッジ認定講座「鷹山宇一記念美術館と地域教育」を開催《21日》

◇鷹山館長八戸読書連合会にて講演会《28日》

◇七戸小学校4年生51名様ご来館《31日》

### 【2月】

◇節分の豆まきを実施 《3日》

◇館内整理のため臨時休館 《4日～9日》

◇鷹山館長七戸町観光協会平成14年度第4回役員会へ出席《5日》

◇美術館職員研修会を実施、岩手県立美術館を見学《6日》

◇鷹山館長「十和田文化新聞社20周年記念の集い」へ出席《9日》

◇鷹山館長「東奥日報社懇親会」へ出席《13日》

◇「七彩会」油絵教室開催 《16日》

◇（財）鷹山宇一記念美術振興会平成15年第1回理事會開催《22日》

◇鷹山館長平成14年度第2回あおもり芸術研究会へ出席《25日》



# 故・秋山先生を偲び

佐藤 亘

私が、日本写真界の大御所秋山庄太郎先生の訃報を知ったのは、1月16日夜のテレビから流れるテロップでありました。ふと私は大きな豊かなお顔やお姿と、穏やかで楽しい会話が脳裏をかすめ、偉大な方でありながら気さくで、私達との距離を感じさせない先生との出会いの一刻を思い浮かべておりました。

私はこの、美術館勤務や写真の世界に少し趣味として関わっていたことから、何度か先生とお話しする機会に恵まれましたが、中でも次の二つは、忘れ難い思い出として私の脳裏に深くインプットされております。

一つは、鷹山宇一記念美術館に来館の折、八甲田を回って宇樽部にある「花鳥溪谷」にお送りしたことがございました。先生と、運転する石田清剛さんと私の3人でしたが、途中中田代湿原で車を降りて、木道をゆっくり歩きながら先生と一緒に周辺の名もない花を撮影して歩きました。

まるで、水戸の御老公と助さん格さん一行の様で苦笑しましたが、私はちょっと老け過ぎた助さんです。知らない人が見たら妙なグループだなあとかわれたかも知れません。

秋山先生は、今にも木道を踏み外し転倒しはしまいかと心配したほど、頼りない歩みでのつそり、のつそりと、湿原を往復致しましたが、花に出会いカメラをさっと構えるその横顔には、もうあの好好爺の姿はなく、フアインダーを覗くその目にはプロの持つ「凝視」する眼力を感じて、私達は厳しい沈黙と緊張を覚えたものでした。

今一つは平成8年6月、家畜改良センター奥羽牧場設立百周年記念のことでした。牧場を会場に記念モデル撮影会を開催しましたが、その作品の審査に、秋山庄太郎先生をお願いすることに、今の美術館長の鷹山ひば



▲1996年、鷹山宇一記念美術館顧問の委任状をお渡しした時のスナップ

りさんと、東京西麻布の先生のスタジオに、354点の作品を持ち込みました。そして最後に入賞作品26点全員の賞状に、先生は

丹念に丹念に御自身の独特のサインをお書き下さったのです。勿論この先生のサインこそ、このコンテストの目玉ではあったのですが、それにしても、お疲れの中、嫌なお顔ひとつもせず、心に込めて、それこそ長い長い時間をかけて書き終えました。私はただただ胸が詰まる思いで、その筆の動きを見つめているだけでありました。深く大きな秋山先生の全人格をその一刻に観たと思えました。みちのくにあって、有り難くも恵まれた先生との出会いの時間をしみじみ思い浮かべ、深い感慨に浸っているところでございます。合掌

【鷹山宇一記念美術館前館長・フォトシチのへ会長・友の会会員】

## 秋山庄太郎氏略歴

1920年東京・神田生まれ。1943年早稲田大学商学部を卒業。同年召集された折、「形見のつもりで」写真集『驕』を自費出版。1946年銀座に「秋山写真工房」を創設するが翌年解散。近代映画社に入り映画雑誌のグラビアを担当、原節子らスターを撮影した。1951年フリーとなる。1953年故・林忠彦氏らと二科会写真部創設に参加する。

優れた女性ポートレートで「女性専科の秋山」として名を馳せ、週刊誌の表紙を多数手掛ける。女性写真の第一人者としての地位を固めたほか、テーマはその後文士・画家ら多岐に渡り、晩年には花を精力的に撮影。

1986年紫綬褒章、1993年勲四等旭日小綬章を受章。1994年鷹山宇一記念美術館の開館記念展として鷹山宇一との二人展を開催。1996年には当館特別展として「女たちと花信・(はなだより)展」を開催。同年当館顧問となる。

2003年1月16日、林忠彦賞の審査中に倒れ再び立たず。享年82歳。

## 「安曇野絵本館」へは...

■住所■長野県南安曇郡穂高町有明2186-117

◆TEL/FAX◆0263-83-6173

■開館時間■

9:30～17:30[4月～10月]

10:00～17:00[11月～3月]

◆休館日◆

火曜日[祝日の場合は開館し、その翌日が休館]

1月・2月は、土・日曜日・祝日のみの開館となります

※年末年始休館、展示替えのための臨時休館有り

■交通■

●長野道・豊科ICより車で20分

●JR大糸線『穂高駅』より車で10分

※ゴールデンウィーク、夏休みは穂高駅より100円バスが運行！『天満沢』又は『小岩岳別荘入口』下車

[4/27～5/6・7/20～8/25]

※お出掛けの際は、臨時休館などもございますので、ご注意ください。

日本国内で美術館が一番多いのは何処だろう、と考えたとき、まず浮かぶのが信州か。

時々出掛けて行っは、何処その美術館にふらりと立ち寄ってくる事が出来るのがあの美しい土地の良さである。

輸入物の絵本限定の展示と販売。キモチのいいCafe。接客レベル満点のウェイトレスの、趣味の良い服装。そしてイチオシは、小気味いい館長との会話。

なにしろ、全館じっくりと鑑賞し終えた後のカフェ・オレのおいしいこと。館長がこだわらなくてはこうならない。細部に至るまで「いいもの」にこだわっているのである。

気持ちのいいもの。眺めのいいもの。趣味のいいもの。味のいいもの。色のいいもの。形のいいもの。そして、その美術館そのものが絶品。いい建物だ。無駄がなく、美しく、その森の霧に、溶け入るように行んでいる。

「日本人作家の絵本は置かないのですか？」の問いに、「良いものは沢山ありますが、節操がなくなるので、我慢して一線を引いています。」との答えが返ってきた。このプロ意識の強さ。私にこんな節操はない。さすがである。

いつも思うのは、かの土地の美術館を起こした人々の芸術意識の高いこと！服装からさりげない会話に至るまでそのレベルの高さが窺い知れる。

その意志の強さが個々の美術館を磨き上げている。 文・Yukiko

わたしのおすすめ  
美術館………  
① 安曇野絵本館

# わたしの おすすめ 美術館……②

## 笠間日動美術館

戸館 昭吉

美術は永遠です、それは人類の貴重な財産である。

絵の好きな人で、日動画廊を知らぬ者はあるまい。銀座に今のように、ギャラリーが軒をつらねることになろうとは誰も考えない頃から、あの重い扉を開くときのかすかな緊張感が忘れられないのです。

笠間日動美術館へは、常磐線友部駅からタクシーとなるが、足の便に少々難があるものの、収蔵品はいずれも絶品で、創設者長谷川仁、林子夫妻の偉大な足跡を伝えてあまりある。

日本の三大稲荷、笠間稲荷に近く、小高い丘の麓にあって、地形を生かしたモダンなミュージアムとなっている。

門を入って左側に本館。ここには、当館の真髄ともいえるべき、長谷川夫妻にまつわる資料が数多く展示され、日本の洋画が欧米のように市場価値をもつて一般の人々に受け

入れられるようになった往時が偲ばれる。

さすが「日動」と感嘆するばかり。印象派のモネ、ドガ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ。続いて、マチス、ピカソ、シャガール、ローランサン、フジタの作品が並ぶ。日動創業45周年を記念して昭和47年に創設したものである。

この本館と、その右側に昭和64年新たに建設された西館、その中央に舟越保武の「道東の春」がある。西館はモダンアートや彫刻が多く、「日動」ならではの34点にものぼる日本画壇の代表的な人々のパレットがある。又、90点もの佐伯祐三、安井曾太郎等の自画像がある。

3階には、私の好きな森本草介の「微睡みの時」もあり、女に変身する美しい少女の姿を見せてくれる。私達七戸の人々には特に親しい二科の西村龍介、織田廣喜、鷹山宇一のパレットがあり、更に林武、

梅原龍三郎等々増えつつあって、画家の個性がパレットにも表れて、楽しい展示である。

「明日に向かって」のテーマで建設された東館は、本館と西館の間の小道を通り、彫刻庭園を鑑賞しながら行くこととなる。長いデッキの渡り廊下から入ることが出来る。

東館では、年8回の企画展の一つとして本館オープン25周年を記念してセザンヌ展が開かれており、思わぬ収穫であった。1860年21才の大作「かくれんぼ遊び」。初期野心作といえる「太陽を崇める中国人」の2点は、全く初めて目にする作品で、改めて、セザンヌへの理解を深めることが出来た。

大規模なセザンヌ展を観る機会に恵まれなかつた私にとって、多くのセ

ザンヌの作品にふれることが出来たことは望外の幸せであった。

休日とあって観覧者はとぎれることはなく、美術館を後にして益子への道々、タクシー運転士の感謝の言葉のなかに、笠間藩医であった宗民から数えて6代目に当たると、林子夫妻の意志が生きていると思ひ、感銘深い旅となりました。

終わりに、長谷川仁氏の語った「美術は永遠ですそれは人類の貴重な財産に他なりません。美術に貢献できることは私の生きがいであり、最高の喜びです。」この言葉を皆様に贈ります。

一言でこのミュージアムを評するならば、「さすが日動」のひとことに盡きます。【財団法人鷹山宇一記念美術振興会理事・友の会会員】

### 笠間日動美術館へは

#### ■住所■

茨城県笠間市笠間978-4

#### ■電話■

0296-72-2160

【※テレフォンサービス/0296-72-2360】

#### ■開館時間■

9:30~17:00(入館は16:30まで)

#### ■休館日■

月曜日

(祝日の場合は開館し、その翌日が休館)

年末年始

※特別展の前後は展示替えのため臨時休館する場合があります。

#### ■アクセス■

東京(上野)から笠間へ

●常磐線友部駅よりバス又はタクシーで約15分。無料送迎バスもあり。

●水戸線笠間駅より徒歩約25分。又は市内循環バス「日動美術館入口」下車徒歩約3分。

※お出掛けの際は、臨時休館などございますのでご注意ください。

## 友の会更新の手続きと ご入会のおすすめについて

平成15年度の更新手続き及びご入会につきましては、先の29号でもご案内をさせていただきました。早速ご更新いただきました皆様、そして新規ご加入いただきました皆様、誠に有り難うございました。新年度も友の会では、芸術文化に一層親しんでいただけるよう、イタリア美術講座、研修旅行の開催など様々な事業を計画し、皆様のご期待に添うよう頑張りたいと思ひます。今後とも、当会並びに美術館の事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、更新手続きがお済みでない会員の皆様におかれましては、是非新年度もご継続下さいませようお願ひ申し上げます。ご更新・新規ご加入の手続きは、美術館窓口、もしくは郵便振替用紙による方法にて随時受付しております。会員の種別、会費、特典につきましてはこれまでと同様です。詳しくは、美術館迄お問い合わせ下さい。

鷹山宇一記念美術館 電話0176(6)258558

## 編集後記

春が待ち遠しい今日この頃、美術館は充電期間である1月2月3月で力を蓄えてパワーアップして、これから始まる特別展に向けて、着々と準備をしています。今年も企画が目白押し、友の会としても、研修旅行、美術講座等、皆様方の期待に添えるよう頑張りたいと思ひます。

編集係 M・O

